

西北アグリ協議会

ニュース 発行 令和六年二月

令和五年度の事業報告

・若森農道の舗装

← 工事後



・平部農道の舗装

← 工事後



令和五年度も後二ヶ月となりました。
平素はアグリ協議会に対してご協力を賜りありがとうございます。

さて、一月一日に発生した能登半島地震も状況が明らかになるにつれ、広範囲にわたり甚大な被害が出ていることがあきらかになってきました。関西でも南海トラフ地震のことが以前から言われていますが、よそ事では無く、想定内だけではなく、想定外のことも考えておく必要があるように感じました。

今年度は、新型コロナウイルスも五類に移行し久しぶりに七月に総会を行い、前年度の事業・会計報告及び今年度の計画の審議を行い、承認をいただきました。

今年度の事業は、若森及び平部の農道のコンクリート舗装の延長。

若森では、令和二年に工事を行った場所の延長を、また、平部では令和四年度に舗装工事を行った所の延長

工事は、十一月に完了しました。
川崎建設様 お世話になりました。

今後の農業

昨年夏、瀬戸内海（山口県）に有る島へ行きました。そこは温暖な気候を利用してミカンの栽培が盛んでまた、漁業でもかなりの漁獲量が十五年程前まではあったそうです。

（過去形）確かに島内を走っていると、手入れのされていないミカンの木がいたるところにあり、ミカン運び出すモノレールも朽ちている姿を目にしました。宿で聞いてみると、高齢化が進み、後継者がいないとのこと。若者はほとんどが都会へ行き、戻ってこないとのことでした。

ところが、しまなみ海道の近くにある島では、京都から移住をした方がレモン栽培をしてがんばっておられる姿を目にしました。

今、農林水産業の将来について危機的な状況に有ると言う人もいます。食料の自給率の低下を避けると同時に、先祖が守ってきた土地をいかに後生に引き継いでいくか。魅力の有る農業にするには。等々

西北地区におきましても高齢化が進む中、人ごとでは無いように思います。何かの話題にしていただけなら幸いです。【文責 西村】

